

2025年度 自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾
麻生情報ビジネス専門学校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、麻生情報ビジネス専門学校の2025年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2026年 1月31日

麻生情報ビジネス専門学校

目次

I 教育理念・教育目標(育成人材像).....	- 3 -
II 重点項目.....	- 6 -
III 基準項目 自己点検・評価.....	- 8 -
基準 1 教育理念、目的、育成人材像.....	- 8 -
基準 2 学校運営.....	- 9 -
基準 3 教育活動.....	- 14 -
基準 4 学修成果.....	- 20 -
基準 5 学生支援.....	- 22 -
基準 6 教育環境.....	- 24 -
基準 7 学生募集.....	- 26 -
基準 8 財務.....	- 27 -
基準 9 法令遵守.....	- 28 -
基準10 内部質保証.....	- 29 -
基準11 社会貢献・地域貢献.....	- 30 -

評価結果

- 3:基準を満たしており、特筆すべき取り組みを行っている
- 2:概ね基準を満たしている
- 1:基準を満たしておらず改善が必要

I 教育理念・教育目標(育成人材像)

法人の教育理念

専門性を高め、かつ人間性・人格の成長を図ります。

本校の教育理念

1. 変化する情報化社会において、体系だった幅広い知識と専門分野の高い技術を持った社会人を育成します。
2. 知識や技術を最大限に発揮するための「人間力」を高めるために、思いやりと自立心を育成します。
3. 豊かな人間性と社会で必要とされる知識・技術を備えた人材を育成し、社会の発展に寄与します。

教育目標(育成人材像)

情報工学科

【高度ITシステム専攻】

プログラマ実践力、システム的设计能力、エンジニアとして必要なコミュニケーションスキルに加え、ITサービスの企画提案ができるエンジニアを育成する。

【高度ネットワーク・セキュリティ専攻】

ネットワーク、サーバなどを用いた大規模なITインフラストラクチャの設計、構築、運用技術を修得すると共に、企業で必要となるセキュリティ技術を修得する。

さらに、コミュニケーションスキルを兼ね備えたエンジニアを育成する。

【AI&IoT専攻】

AIを適用した実用的なIoTシステムの企画から構築、効果検証を行う技術を修得する。

画像や音声、言語及び各種センサーからのデータを解釈して動作に活用する一連のシステムを開発できるエンジニアを育成する。

情報システム専攻科

【システムエンジニア専攻】

プログラマ実践力に加えて、システムの設計、構築ができ、お客様やチーム内エンジニアとの仕事において必要なコミュニケーションスキルを持ったエンジニアを育成する。

【ネットワークエンジニア専攻】

ネットワーク、サーバなどを用いた IT インフラストラクチャの設計、構築、運用技術を修得する。
さらに、コミュニケーションスキルを兼ね備えたエンジニアを育成する。

【AIエンジニア専攻】

IoT 環境の構成要素を理解し、AI システムの実装方法を修得する。画像や音声、言語の認識技術を活用するとともに、機器の制御ソフトウェアを開発できるエンジニアを育成する。

情報システム科

【プログラミング専攻】

プログラマとしての実践力とチーム開発で必要となるコミュニケーションスキルを持ったエンジニアを育成する。

【ネットワーク専攻】

ネットワーク、サーバなどを用いた IT インフラストラクチャの構築、運用技術を修得する。
さらに、コミュニケーションスキルを兼ね備えたエンジニアを育成する。

【AIプログラミング専攻】

AI の種類や特徴、及び適用領域の知識を持ち、機械学習を中心とした AI の仕組みを理解し、AI システムのプログラミングができるエンジニアを育成する。

国際ITエンジニア科

知識のみならず運用力の伴った日本語力を身に付けるとともに、日本企業で求められるビジネスコミュニケーションスキルを身に付けることで、日本国内外におけるITシステムを活用した業務の効率化とITシステムの開発に貢献できる人材を育成する。

経理科

情報化が進むビジネス社会で生き抜くために必要な簿記・会計・税法に関する専門的な知識をもとに、経営上の諸問題を発見・分析・解決できる実践的能力を養い、即戦力として幅広く活躍できる人材を育成する。

情報ビジネス科

Microsoft 社の Office 製品を総合的に使いこなし、事務処理の効率化を図るとともに、効果的プレゼンテーションが出来るスキルを身に付ける。さらに、社会人としてのマナーを備え、即戦力して対応できる人材を育成する。

ビジネスエキスパート科

企業内で一般的に使用されているパソコンのソフトウェアを全般的に使いこなし、指導・教育担当者として必要なプレゼンテーション、インストラクション、コミュニケーション能力を身に付けることで、社会で情報活用のリーダーシップを発揮することができる人材を育成する。

経営ビジネス科

IT・経営・データ分析に関する知識を総合的に習得することで、経営的な視点にたつて、社会や企業の課題解決を行えるゼネラリストおよび将来的に起業もできる人材を育成する。

IT 経営科

IT・経営・インターネットビジネスに関する知識を総合的に習得することで、経営的な視点にたつて、社会や企業の課題解決を行えるゼネラリストおよび将来的に起業もできる人材を育成する。

国際ビジネス科

知識のみならず運用力の伴った日本語力とともに、日本企業で求められるビジネスコミュニケーションスキルを身に付け、日本国内外で活用できる人材を育成する。

キャリアデザイン科

幅広い職種理解から自己の適性を踏まえて職業を選択する力を持ち、さらにインターネットの知識やパソコンスキル、マナー、コミュニケーションなど、ビジネスにおける汎用的な実務能力を身に付けることで、社会の変化に対応しながら活躍できる人材を育成する。

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

大学に負けない独自性の強化 — 職業への興味・関心 UP

2. 取組み状況

職場見学・イベントへの参加促進

株式会社 NTTデータ九州 (5月実施)
株式会社 ピー・ビーシステムズ (6月実施)
株式会社 みんなの銀行 (10月実施)

研修旅行の充実(職場見学、イベント参加)

情報システム科 1年生 関東研修旅行 (11月実施)

Sky 株式会社 (東京本社)
ヤマトシステム開発 株式会社 (晴海オフィス)

情報システム専攻科 AI エンジニア専攻 2年生、
情報工学科 AI IoT 専攻 2年生 関東研修旅行 (10月実施)

株式会社 クレスコ (本社)
Sky 株式会社 (東京本社)

情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻 2年生、
情報工学科ネットワーク・セキュリティ専攻 2年生 関東研修旅行 (6月実施)

NEC ネットズエスアイ株式会社 (日本橋イノベーションベース)

情報システム専攻科システムエンジニア専攻 2年生、
情報工学科高度ITシステム専攻 2年生 関東研修旅行 (6月実施)

株式会社 メンバーズ (本社)
ヤマトシステム開発 株式会社 (晴海オフィス)
株式会社 クレスコ (本社)
デジタル化・DX 推進展 (東京ビッグサイト)

情報システム専攻科 3年生、
情報工学科 3年生 海外(タイ)研修旅行 (11月実施)

Studist (Thailand) Co., Ltd.
泰日工業大学

ビジネスエキスパート科 1年生 関東研修旅行（10月実施）

日本NCRサービス株式会社（本社）

情報ビジネス科 1年 Aクラス 関東研修旅行（10月実施）

リコージャパン株式会社（本社）

情報ビジネス科 1年 Bクラス、

IT経営科 1年生 関東研修旅行（10月実施）

日本トーター株式会社（本社）

経理科 1年生 関東研修旅行（10月実施）

キャル株式会社（東京第二オフィス）

卒業生セミナー「仕事のやりがい、楽しさ、将来性」の実施

システム系 卒業生セミナー（5月実施）

ビジネス系 卒業生パネルディスカッション（4月実施）

国際系 卒業生セミナー（10月実施）

定期的な業界理解のため授業

企業セミナー

ユニアデックス 株式会社（6月実施）

株式会社 IDホールディングス（6月実施）

Avinton ジャパン 株式会社（6月実施）

トーテックアメニティ 株式会社（10月実施）

株式会社 IIJプロテック（10月実施）

株式会社 NTTデータ九州（10月実施）

内定者動画の視聴（随時実施）

3. 総括(成果と課題)

大学に負けない独自性の強化策として、学生の職業への興味・関心を向上させることを目的に、上述の通り、4つの施策を実施した。各施策ともに、予定通りに実施できたが、特に研修旅行に関しては、錚々たる企業の、しかも本社等最先端の職場を見学し、そこで働く企業の方のお話も伺うことが出来、参加した学生たちの職業への興味・関心を高めることが出来た。次年度以降も、学習や就職への意欲をより高めるために、研修旅行のさらなる充実を図っていきたい。ただ、交通費や宿泊費の高騰により、学生の負担が大きくなっており、特に、海外研修旅行は、国内以上に費用が高騰しているため、実現に向け、早い時期から綿密に検討を行いたい。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

中項目1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【取り組み状況】

法人の教育理念は明文化し、麻生専門学校グループのホームページにて公表している。本校の教育理念や目的および育成人材像は、法人の理念を基に展開しており、麻生情報ビジネス専門学校福岡校のホームページにて公表している。また、これらは学生便覧に掲載し、教職員および学生に周知するとともに、学生に対しては、入学直後に新入生全員が集合してのオリエンテーションを実施して周知した。さらに、GCB教育(グローバルシティズン・ベーシック教育、麻生塾独自のキャリア教育プログラム)を通して、麻生塾の学生としてふさわしい態度や考えの指導に取り組んでいる。

新しい教職員が増えている中で、教育理念を教職員にしっかり浸透させるため、年度初めに、学生便覧(教育理念等)の読み合わせを行っている。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	2
1-1-2	各学科の教育目標(育成人材像)を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	2

=====
基準 2 学校運営
=====

中項目2-1

学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか。

【取り組み状況】

学校の教育理念に沿った運営方針を策定し、説明用の資料を作成した。

2025年3月11日(火)に麻生情報ビジネス専門学校の2025年度キックオフミーティングを開催し、上記の資料を用いて、全教職員に運営方針の説明を行った。

なお、学校を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、運営方針が学校を取り巻く状況に対応できていないと判断した場合は、年度途中であっても、運営方針の修正、変更を検討する。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	2

中項目2-2

事業計画を作成し、執行しているか。

【取り組み状況】

運営方針に沿った事業計画を策定し、学校のサーバーに保存して共有している。

事業計画の執行状況は、毎月の経営会議用の資料で管理し、週1回のリーダー会議や月1回の教務会議(全教職員が参加)において、状況の共有および対策の検討を行っている。

なお、会議や朝礼は基本的には対面で行い、密なコミュニケーションを図っているが、テレワーク等の人のために Teams の会議を起動した状態で行い、情報の共有漏れを防いでいる。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	2
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	2

中項目2-3

運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。

【取り組み状況】

法人において明文化された運営組織および意思決定機関の仕組みのもとで運営されている。理事長・常務理事・理事・本部長・監事が参加する常任理事会が適宜開催され、組織運営上の重要課題について合議がなされている。

また、校長代行が参加する部門長会議等、各階層別・目的別の会議体が設計されており、これらに参画し、法人方針の共有と学校運営への反映を行っている。会議は計画的に開催され、有効に機能している。

麻生情報ビジネス専門学校においては、授業、クラス運営等、日常の業務は、カテゴリー(分野)ごとのグループに分かれ、管理職やリーダー、サブリーダーを中心に運営を行っている。各グループは週に1回のグループ会議を開催している。

管理職やリーダー、サブリーダーは、校長代行と主任が開催する週に1回のリーダー会議に参加し、現状の共有や対策の協議を行っている。

また、校長代行と主任は、月に1回、全教職員を対象とし、情報共有を主目的とした教務会議も開催している。

本校には事務長と教務事務が配置されており、学生の就職支援や予算の管理等を行っている。事務長と教務事務は、企業との面談等によって知識、情報を得るだけでなく、計画的に研修にも参加している。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	2
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	2
2-3-3	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に行われているか。	3
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	2
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	2

中項目2-4

人事・給与に関する制度を確立しているか。

【取り組み状況】

法人で整備された雇用区分ごとの就業規則および各種人事諸規程、労使協定に基づき運営している。これらは法令を遵守して整備されている。また、法人の運営方針や労働関連法令の改正に応じて規程の見直し・改定が行われており、その内容を教職員へ周知し、適切な運用に努めている。

法人で定められた給与規程(または一部雇用形態については就業規則)に基づき、法令を遵守した給与制度のもとで運用している。これらの規程は法人内共有フォルダ等を通じて教職員に公開されており、本校においても透明性の確保に努めている。

法人で整備された昇給・昇格制度を含む人事制度に基づき運営している。制度内容は教職員に公開されている。また、法人の基本方針を踏まえつつ、社会情勢や物価動向等を勘案し制度の見直しが適宜行われており、その運用において公平性・妥当性の確保に努めている。

法人で定められた採用規程に基づき、適切な募集・採用を行っている。採用にあたっては、当該部署の責任者が採用稟議を起案し、求める人物像を明確にしたうえで選考を実施している。また、法人本部および関係部門と連携した採用体制のもと、面接から内定判断まで規程に則って運用している。さらに、選考状況や内定辞退の状況等を確認し、採用プロセスの妥当性について検証を行っている。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	2
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	2
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	2
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	2

中項目2-5

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

学生の学籍、成績、就職等、入学前から卒業までトータルに情報を管理、共有するための情報システムとして、「麻生塾システム」という学校法人麻生塾独自の情報システムを利用している。この情報システムは、教務だけではなく、学校法人麻生塾の全部門が使用しており、情報の共有化や一元化が図られている。

また、オンライン授業や、学生と教員、教職員どうしのコミュニケーションのツールとして、Microsoft Teams を利用し、オンライン授業においても、対面授業と同等の教育効果をあげている。

麻生情報ビジネス専門学校単独でも、Microsoft Teams 上の仕組みを活用して、学生や教職員へメールを一斉発送するためのメーリングリストの作成、出席状況を全学生へ知らせるメールやチャットの自動化等に取り組み、業務の効率化を図っている。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-5-1	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	2

=====
基準 3 教育活動
=====

中項目3-1

教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【取り組み状況】

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った3つのポリシー(アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー)を定め、学生便覧に掲載することによって、教職員および学生に周知している。また、これらは、麻生情報ビジネス専門学校福岡校のホームページに掲載し、社会に公表している。

カリキュラムをはじめとした教育課程全般の検証のために、教育課程編成委員会を、年に2回実施した。教育課程編成委員会にて頂いたご意見は、カリキュラム会議で協議した後、カリキュラムに反映させている。

また、3つのポリシーも、教育課程編成委員会におけるご意見等を参考に、リーダー会議で協議し、検証を行っている。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-1-1	教育目標(育成人材像)に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	2
3-1-2	教育目標(育成人材像)に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	2

中項目3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【取り組み状況】

カリキュラムは、教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程編成委員会における意見を踏まえ、カリキュラム会議で検討し更新している。実践的な職業教育の視点に立った教育内容が提供できているかを確認するため、一般社団法人iCD協会が提供しているiコンピテンシ デクシヨナリ(企業において IT を利活用するビジネスに求められる業務と、それを支える IT 人材の能力や素養を体系化したもの)に基づく学生アンケートも実施している。具体的には、年度初めと年度末に実施したアンケート結果を学科・学年ごとに集計し、項目毎の教育効果を確認している。科目毎のコマシラバスも毎年更新し、教師間で共有し、各シラバスに実施状況の記録を残すことで整合性の確認を行っている。

キャリア教育は、就職実務やGCB教育(グローバルシティズン・ベーシック教育、麻生塾独自のキャリア教育プログラム)等の授業、企業講演会やインターンシップ等により、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度の習得・育成を促している。今年度は、運営方針として、学生の職業への興味・関心を高めるため、次のような施策を実施した。

- ・企業見学・企業イベントへの積極的な参加
- ・研修旅行における企業訪問
- ・卒業生セミナー(仕事のやりがい、楽しさ、将来性を伝える)

【課題及びその改善方策】

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なえていて問題はないが、入学してくる学生の大多数が、職業への興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組んで成長できる教育課程・教育内容をめざして、引き続き改善に取り組む。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	2
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容(学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等)が提供されているか。	2
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	2
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	2

3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	2
3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	2
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	2
3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	2
3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	2

中項目3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【取り組み状況】

授業の評価については、学校法人麻生塾教育推進グループ(以下「教育推進グループ」という。)が事務局となり、管理職、リーダーが主体となって、前期終盤と後期終盤に授業アンケートを実施している。アンケートの集計結果は管理職が確認し、必要な教員には指導を行っている。また、教員別の集計結果は各教員に配布し、各教員が改善計画などのコメントを記入し、管理職に提出している。

また、より短い周期で改善を図るため、授業ごとに、簡単な数項目のアンケートを、学校法人麻生塾独自の「manabie」という情報システムにより実施している。

オンライン授業や、ブレンド型授業などについては、教員間で情報共有したり、動画教材を共有したりすることにより、日々改善を図っている。

【課題及びその改善方策】

教育の評価は適切に行い、その結果に基づく授業内容・授業方法の改善も行えており問題はないが、教育の質をさらに高めるためには、教員が授業内容・授業方法の改善を図るために使える時間を増やす必要がある。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	2
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	3
3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	2
3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	3
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	2

中項目3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【取り組み状況】

成績評価、単位認定、進級・卒業判定については、学則及び各規程を定め、学生便覧に記載することにより、学生、教職員に周知している。また、各科目の評価基準については、シラバスに記載し、学生、教職員に周知している。これらに基づき、成績評価を適切に行っている。なお、精神的な理由等で教室に入れない学生は、フレックスクラス(学校法人麻生塾GCB推進室が運営する校内教育支援センター)において、成績評価のための試験を別室受験させている。

成績表については、複数教員でダブルチェックを行い、評価、入力に間違いのないようにしている。

進級判定、卒業判定については、学校法人麻生塾福岡キャンパスの校長、校長代行による進級判定会議、卒業判定会議において決定している。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	3
3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	3
3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	3

中項目3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

法令に則り、かつ学校の教育理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮した上で、必要な教員組織を構築している。教員採用時には複数回の面接及び模擬授業を実施し採否の判断を行っている。採用後も指導担当者(チューター)を配置してOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング、実際の職場で実務を通して学ぶ訓練)を行うことにより、指導力の向上、組織への順応を促している。

授業、クラス運営等、日常の業務は、カテゴリー(分野)ごとのグループに分かれ、管理職やリーダーを中心に運営を行っている。そのグループ内や学校全体で、資質向上のための情報共有や人材の育成を行っており、企業等が実施する、専門分野の実務能力や学生に対する指導力を向上させるための研修には、計画的かつ積極的に参加させている。

【課題及びその改善方策】

教育体制の整備や教員の資質向上の取り組みは適切に行えており問題はないが、教育の質をさらに高めるためには、教員が研修や研究に充てる時間を増やす必要がある。

→ 他部門を含めた法人全体で、教員の業務負荷(特に事務作業や雑務)を軽減するための取り組みを継続する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	2
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	2
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	2
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。	2
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	2

=====
基準 4 学修成果
=====

中項目4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【取り組み状況】

就職については、就職担当職員と就職年次の担任が、毎週、就職部会を開催し、求人情報や学生情報の共有を行い、必要に応じて就職活動の推進策を協議している。また、週に1回のリーダー会議や月に1回の教務会議でも就職率や就職者の割合の共有を行い、それらの向上策を協議している。

資格・検定については、週に1回のグループ会議を中心に、取得率の向上策を検討して実施するとともに、次年度に向けてはカリキュラム会議でカリキュラムやシラバスに向上策を織り込んでいる。

退学防止については、クラス担任が学生の日常のケアを行い、出席率低下等、退学の兆候の見える学生については、グループ会議やリーダー会議で対策を協議し、リーダーや管理職が担任に協力して退学防止策を講じている。

出席不良や退学の対策として、学生の良い面に着目し、前期末、後期末に、その半期が皆勤であった学生を表彰するという試みを行っている。また、毎週末、全学生に出席状況を知らせるメールまたはチャットを送る試みも行っている。そこでは、出席状況が悪い学生に注意するだけでなく、出席状況の良い学生を褒める言葉を添えるようにしている。

さらに今年度は、運営方針の中で、面談スキルの向上をきっかけ、下記の施策を実施した。

- ・タイムリーな面談の実施と適切な面談者の選定
- ・面談内容の事前打ち合わせの実施

【課題及びその改善方策】

教育活動や、その改善活動は、しっかり行えており問題はないが、本校入学前に不登校を経験した学生が右肩上がりに増加している中、そのような学生に対応した改善を大胆に実施して行く必要がある。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取り組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	2
4-1-2	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取り組みを行っているか。	3
4-1-3	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取り組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	2
4-1-4	資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	2

中項目4-2

卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【取り組み状況】

企業における卒業生の状況や、企業が学校の教育活動に求めていることについては、就職担当職員が企業から聞き取り、就職部会やリーダー会議等において、教員に共有している。また、教員が就職担当職員に同行し、企業から直接ご意見を伺うこともある。

また、本校は卒業生の内定先企業にアンケートを実施し、企業への貢献度や、「資質」や「技術・資格・能力」について優れている点・不足している点の把握をしている。

なお、昨年度のアンケートの結果は、6月の教務会議で全教職員に共有し、7月の学校関係者評価委員会においても学校関係者評価委員に共有した。

【課題及びその改善方策】

卒業生の卒業後の動向や就業状況については、個人情報保護法の関係で、企業からの回答率が非常に低くなっている。アンケートでは限界があるため、より正確に調査・把握するための方法を構築したい。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	2

=====
基準 5 学生支援
=====

中項目5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

麻生専門学校グループには、グループ各校をサポートする、学校法人麻生塾学生支援グループ(以下「学生支援グループ」という。)等が設置されており、各校の教職員と共に、留学生を含む全学生の修学支援、生活支援を行っている。

就職支援に関しては、学校内に就職支援を行う専門職員を置き、担任と協力して就職指導を行っている。企業インターンシップにも積極的に参加できるよう情報を提供し、参加を促している。また、卒業生に関しては再就職の相談や斡旋を行う専用のサイト「ASO 卒業生キャリア支援 CONNECT」を運用している。

担任教員は、学生や保護者等との面談を適宜行っており、必要に応じて管理職等も同席している。また、面談の内容は、麻生塾システムの中に記録し、法人全体で共有している。教員以外の相談先として、学校法人麻生塾学生相談室(以下「学生相談室」という。)があり、公認心理師であるカウンセラーや専任の職員が相談に当たっている。また、精神的な理由等で教室に入れない学生に対して、別室登校が出来るフレックスクラスを設置している。

留学生や障がい者も受け入れており、即戦力としての人材育成指導を行いつつ、外部団体(就労支援団体等)とも連携して就職までの指導支援を行っている。

経済的支援としては、特待生制度、進級支援制度、学費分割納入制度及び無償化認定等、各種支援制度を準備し多くの学生が活用している。

健康管理については、学生支援グループを中心に、年間計画に基づき健康診断を実施し、結果を記録・保存している。未受診者および再検査対象者への受診勧奨を行う体制も確立している。

また、法令に基づき結核健康診断実施報告を保健所へ提出している。

さらに、結核感染予防の観点から、留学生に対しては入学前ガイダンス時(3月)に胸部X線検査を実施し、早期発見に努める取り組みを定着させている。

生活環境への支援として、直営寮・提携寮を完備している。寮監を配置し、定期的に学生の様子を報告してもらう仕組みを取り入れている。入寮・退寮手続きの案内をし、請求・返金など寮費の管理を適切に行っている。Teamsを活用し、寮監・学生・学生支援グループの3者間で連絡を密にし、協力体制を構築している。寮の運用については、校舎等と同様、学校法人麻生塾業務推進グループ(以下「業務推進グループ」という。)が、学生支援グループや国際交流センターとともに、施設面に対する整備を進めている。

【課題及びその改善方策】

学生に対する支援組織体制は整備できているが、精神的な不安を抱える学生は年々増加しており、教員はそれらの学生対応に苦慮している。

→ 学生相談室、フレックスクラスとの連携をさらに強化する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	3
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	3
5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	2
5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	3
5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	2
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	2

=====
基準 6 教育環境
=====

中項目6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【取り組み状況】

施設、設備については設置基準を遵守し、かつ教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育に必要なものを整備しており、適正に管理している。設備整備に関しては業務推進グループと連携し、年度毎に教室見直し及び設備の補充・修繕を行い環境の維持に努めている。

ソフトウェアライセンスは、数の管理が必要な物は資産管理ソフトウェアを導入して管理を継続している。またMicrosoft 関係のライセンスは包括ライセンスを結ぶことによって、数量管理をせずに運用が可能となっている。

麻生専門学校グループ福岡キャンパスの共用施設として、図書室・図書コーナーを設置し、職員配置や開館時間、閲覧環境および情報検索設備を整備している。また、図書管理台帳を作成し、規程に基づき図書の登録・点検・廃棄等の管理を行っている。これらを通じて、図書館サービスが適切に機能していることを確認している。

【課題及びその改善方策】

教室や机の広さは、設置基準は満たしており問題はない。ただ、PC 等を用いて学習するには、一人あたりの面積に余裕がない。

→ 学習環境の変化に合わせて、中長期的な視点で、快適に学習できる環境を整えて行く。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	2
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	2
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	2

中項目6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

安全対策に関しては、業務推進グループを中心に、関連機器の点検を定期的を実施し、報告書は保存管理を行っている。法定点検や設備点検時は可能な限り立会い、状況を確認している。さらに、安全上の問題が設備に発生した場合は、業務推進グループの問合せ窓口を起点に迅速に業者と連絡が取れるように体制を整え実践している。

また、避難経路の掲示、防災訓練を実施し、教職員や学生へ周知徹底を図るとともに、学生の登下校及び学校生活における事故に備えて、保険の加入を義務化している。また、災害発生時や感染症発症時の緊急連絡網も整備し、運用している。

毎年避難訓練を実施しているが、2025年は11月13日(木)に、全教職員と全学生が参加して、学校から近隣の公園までの避難訓練を実施した。

インターンシップ(学外実習)時には条件記載の文書を基に、誓約書の作成を義務化している。インターンシップ(学外実習)実施前には、事前教育のためのマニュアルを整備し安全管理を含めた指導を行っている。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-2-1	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	2
6-2-2	定期的に防災訓練を実施しているか。	3
6-2-3	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	2

=====
基準 7 学生募集
=====

中項目7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

アドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)を策定し、募集要項に記載すると共に、麻生情報ビジネス専門学校福岡校のホームページにて公表して、受験者に周知している。また、学生便覧にも記載し、学生および教職員に周知している。

就職実績、国家試験結果、卒業生の活躍等の教育成果は、パンフレットやホームページに正確に記載し、社会に公表している。

学生募集については学校法人麻生塾入学相談グループ(以下入学相談グループという。)を中心に、教務や就職支援グループも加わって、アドミッション・ポリシー(入学者の受け入れ方針)に基づいた、オープンキャンパス等の募集活動を適切に行っている。

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を実施している。入学願書の受付・入力から選抜試験運営までの業務体制を整備し、毎年度、事前に実施体制の検証を行っている。入学選抜業務は「麻生塾システム」により一元管理し、総務・保守部門と連携しながら、募集要項に基づき適切に運用している。試験問題、実施教室、備品、運営担当者配置等についても計画的に準備を行っている。願書受付についてはマニュアルを整備し、統一的な運用を徹底している。試験当日の運営においても役割別マニュアルを整備し、事前打合せにより認識統一を図ることで、公正性・正確性を確保している。

校納金については、適切な授業料や入学金等の設定を行っている。教材費については、各学科のカリキュラムに合致した教材等を教務で協議し、妥当性、透明性を確認して決定している。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	2
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	2
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	2
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	3
7-1-5	校納金(学生納付金)等は妥当なものとなっているか。	2

=====
基準 8 財務
=====

中項目8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えているといえる。

学校の管理、運営体制については、学校法人麻生塾経営企画グループと学校法人麻生塾経理グループが中心となり、予算計画を作成している。また、学校年度収支については、月次での予実管理を実施し、収支バランスの管理を行っている。

私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を公開している。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	2
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	2
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	2
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	2

=====
基準 9 法令遵守
=====

中項目9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【取り組み状況】

法令、専修学校設置基準については、学校法人麻生塾法務人事グループ(以下法務人事グループという)、教育推進グループ等と協議し、職業実践専門課程及び文部科学省専門課程認定校の基準と併せ遵守している。また、校地・校舎・講義室・実習室等の面積についても同様の取り組みを行っている。その他の法令の遵守については、法務人事グループの支援を受け、想定されるリスクやその対応方法等を法人全体と共有している。

関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程は法務人事グループ、教育推進グループ等と協力して整備しており、電子文書および印刷物によって教職員に共有し、適切に運用している。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	2
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	2

=====
基準10 内部質保証
=====

中項目10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

教育推進グループを中心に、麻生塾全体における自己点検・評価の実施体制や評価項目の見直しも定期的及び適宜進められており、各実施年度において自己点検を行う際の留意点や改善策を提示されている。

麻生情報ビジネス専門学校においては、Microsoft Teams 上の Forms を利用して、全教職員で自己点検・評価を実施している。その結果を踏まえて、組織的に改善に取り組んでいる。

また、職業実践専門課程の基準を基に、学校関係者評価委員会を開催し、教育に関する検証を行っている。

2025年度は7月2日(水)に、2024年度の学校運営に関する評価をしていただいた。指摘事項については随時改善に取り組み、評価委員へ報告を行っている。評価結果は、麻生情報ビジネス専門学校福岡校のホームページにて公表している。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	3
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	2
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	2
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。	2
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	2

=====
基準11 社会貢献・地域貢献
=====

中項目11-1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

学校の教育資源である教員や施設を活用することにより、高校や中学校を対象とした来校型や出張型の授業、高校生向けコンテストを実施している。来校型や出張型の授業は、高校からの希望が多く、今年度は数多く実施した。

学生のボランティア活動は、学校周辺地域の清掃を「ちょボラ」と称して学生を募集し、月に1回ずつ実施している。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
11-1-1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	2
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	2